

令和3年度 第1回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和3年11月19日（金）午後2時00分～午後3時30分

場 所 長野市立博物館 2階 会議室

出席委員 相澤委員・大串委員・東福寺委員・松澤委員・宮下会長・山貝委員

1 開会

2 委嘱書交付

3 あいさつ

4 委員紹介・職員自己紹介

5 正副会長互選

相澤委員が宮下委員を会長に推薦し、承認される。

宮下会長が浅倉委員を副会長に指名。

6 正副会長あいさつ

3 協議事項（議長 宮下会長）

（1）令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画

本館 事業報告（細井係長） 事業計画（原田係長） 戸隠（田辺補佐）

信州新町（前澤主査、畠山係長）

（相澤委員）「コロナ（新型コロナウイルス）禍で大変な中でご苦労である。9月14日からのEXPO善光寺展は非常に人気だった。デジタルスタンプラリーが子どもにも非常に好評で話題になった。（展示の開会が）コロナの影響で一週間遅れ、観光振興課で企画した上越市や甲府市の市長が長野市に来るイベントも流れたが、博物館としては今後、上越市や甲府市と組む予定はあるか。資料の貸し借りはあるだろうが、他にはあるか。」

（丸野館長）「観光振興課が3市でやろうということだったが、コロナでほぼ中止となってしまった。博物館としては資料の貸し借りはあるが、他はないので今後検討したい。」

（山貝委員）「御開帳の展示について。私は善光寺の近くに住んでおり、期間中は家から出られないほど人が来る。集客のためのプロジェクトはあるか。」

（丸野館長）「観光振興課や博物館が立地する公園を管轄する公園緑地課で協力して人を呼

び込もうとしている。業者とのつながりなどは観光振興課が長けているのでチラシの配布などで協力したい。」

(山貝委員)「前は人が来たのか。」

(丸野館長)「かなり来たようである。」

(東福寺委員)「私自身は友の会としてやっていて、180名に(友の会)会員が増え、12の同好会グループある。同好会は今年2つ増えた。口コミで人を呼び込みたい。余談になるが、昨日川上村から4年生がバスで来館した。遠くからのため何時に出たのかを聞いたら6時発とのことで驚いたが、博物館がそれだけ知名度があって好かれているのだと感じた。お昼は善光寺の方で食べるとのことだったので、善光寺と川中島古戦場は来年(観光客を呼び込むのに)よいと思う。」

(宮下会長)「コロナで遠くへ修学旅行に行けず、近場に行くようになってきているときいたが、どうか。」

(畠山係長)「飯山など市外から新たに3校、修学旅行の代わりに化石体験に来た。」

(宮下会長)「地元を見直すいい機会だと思う。」

(松澤委員)「わくわくだよりを見ていいと思うが、なかなか行けずにいる。PTAでもSNSで発信できないかと思った。スマホを使ったスタンプラリーは子どもが喜ぶと感じた。博物館と分館をスマホのスタンプラリーで連携してはどうか。」

(大串委員)「展示に踏み込むことになるが、御開帳展は大事な企画だろう。博物館は子どもたちが非日常を感じると同時に今の長野を感じる場所だと思う。今とのつながりを意識するようにすると思う。スペースの問題もあるが、例えばコロナの元での御開帳を象徴するような要素を入れられないかと思う。戦後最初の長野平和博覧会を戦後の中で考えるなど、子どもや女性からみた御開帳とか、そういった視点がほしい。川中島の戦いも同じで、ここに住んでいた人が合戦でどうなったのかといった視点も入れるとよいのではないか。」

(樋口主事)「展示のあいさつでコロナに触れ、展示のエピローグでは長野市が今のようにイベントを行っていることにつなげたいと思っている。長野平和博覧会も取り上げる予定である。」

(相澤委員)「コロナでほとんど来客がない中でも、県外からの2団体を案内した。甲府は信玄生誕500年の関連で盛り上がっているようなので、からめてもよさそうである。また、合戦で地元がどうだったのか、という視点はよいと思った。幕張りの杉のエピソードもあるが、地元民としての視点を知りたい。上杉武田関係なく地元の人を吊ったようだし、地元民がどうしていたのかを解き明かしていただくと、誇りをもつのが難しい時代に地元民として誇りが持てるもので、研究してほしい。」

(2) 報告事項

(ア) ミュゼ蔵関係 (成田補佐)

(宮下会長)「市民の声でできあがったものを廃止するのは大変だと思うが、ここでは丁寧にやっていたいている。よいと思う。」

(イ) 中条郷土資料室について (細井係長)

(宮下会長)「古いものを生かしながら未来に進む一つの姿だと思う。住民の反応はどうか。」

(細井係長)「以前は人が足を運びにくい場所だったが、施設の見やすいところに展示室ができたので、市民センターに来た人が見やすくなったという面では好評をいただいている。」

(ウ) 文化財レスキューについて (樋口主事)

(大串委員)「補足をしたい。被災資料は穂保がほとんど確認できず、赤沼と津野がまとまってレスキューできた。悪い意味ではないが、復旧の搬出作業と同時だったため、昭和や平成と書いてあると捨てられてしまう。私も基準を考えて、救えたものもある。新幹線と長野オリンピックがこの地域で今後大切になってくるのではないかと思い、救った。長野市としてどういうものが大切か、ガイドラインのようなものがあると、人が代わっても後世に伝えられる。今年は長沼地震から110年だが、ほとんど記録が残っていない。長沼村史に載っている史料が確認できないということもあるので、長野市として何を残していくのか考える必要がある。」

(宮下会長)「長野市誌の編纂が終わり、続きの現代史をどう描くかという課題がある。災害が忘れる間もなく来るので、どう資料を残していくかが課題だと思う。」

(エ) 公共施設マネジメント個別施設計画 (田辺補佐)

(宮下会長)「合併した市町村が抱えている問題である。設立の経緯を見ると住民が大切に作ったものである。時代の流れ、予算の問題から仕方がないことではあるが、それを閉じるというと大変なことである。検討委員会の設置など丁寧に進めているので、これからもそうしてもらいたい。」

(3) その他

(相澤委員)「以前出された5年の中期目標の総括をしていただきたい。令和4年度からの計画を立てる予定はあるか。」

(細井係長)「次の協議会で説明したい。」

(大串委員)「5年計画ということは、立てた後に災害が来ている。これからの計画を立てるならば、通り一辺倒の計画ではなく、ながの方式の検討や、増えた友の会会員の活動をはぐくむような計画にしていってほしい。」

(宮下会長)「災害や、災害がなくても家がつぶれて資料の散逸もある。博物館の在り方が問われ、大きく変わってきているのでしっかりと検討してほしい。」

4 閉会